

三古の水だより

〈発刊所〉
信濃川左岸流域
農業水利事業所
〒940-0082
新潟県長岡市千歳
1丁目3番8号
(長岡地方合同庁舎6F)
TEL: 0258-31-1011



「三古の水だより」とは？

北陸農政局信濃川左岸流域農業水利事業所が発刊する広報誌です。題字になっている「三古」とは、前歴事業(一期事業)信濃川左岸農業水利事業の原形である昭和20年に樹立した「三古用水改良事業計画」から引用した言葉です。ちなみに、「三古」は三島郡の「三」と古志郡の「古」より出た本地区を表すものです。また、当地区は、三度目の国営事業ということもあり、「三」にとても縁が深い地区としてこの題字としました。

全員参加の農業経営

農事組合法人エコファーム巻島は新潟県長岡市巻島地域のほ場で米や野菜などを作っています。巻島地域は信濃川の左岸側に位置しており、昔から野菜の生産が盛んな地域です。

エコファーム巻島は平成9年に農業機械を共同利用するために巻島生産組合を設立したことから始まりました。代表理事の志賀氏は法人代表の3代目です。法人は巻島地域の農家24軒から構成されており、全員が協力して将来世代まで地域内農地を維持保全することを経営の重要な柱の一つとしています。

普段は14人で40haを超える農地の管理を行っており、米の他にも麦、枝豆、ネギを生産しています。栽培する米の品種は「コシヒカリ」、こしひがき、新之助、ゆきん子舞と多岐にわたります。また農薬や化学肥料を従来の半分に減らした、特別栽培米の生産にも取り組んでいます。

地域への貢献

巻島地域の農家から構成されるエコファーム巻島は、地域との関わりを大切にしています。

例年秋には収穫感謝祭を開催します。新米おにぎり、豚汁、きな粉餅などを振る舞ったり、新米の販売を行い、地域の小さな子供から年配の方まで幅広い世代の方に喜ばれています。新型コロナウイルスの影響で一時は中断したものの令和5年度から徐々に活動を再開し、意欲的に取り組んでいます。他にも毎年地域の小学校の授業の一環として行われている、田植えや稲刈りなどの農作業体験にも協力しています。

中央:志賀 代表



安全・安心な農業で、巻島地域の農地を守る

【新潟県長岡市】

農事組合法人

エコファーム巻島

代表理事 志賀 学 氏



法人情報

住所: 〒940-2005 長岡市巻島町178番地1
電話番号: 0258-29-2240
業種: 米の生産・販売、野菜の生産・販売
組合員: 長岡市巻島地域の農家24軒

JGAPの取得

エコファーム巻島では、25年ほど前に農協から声がかかったことをきっかけに「紙マルチ」を活用した米の有機栽培に取り組んでいます。紙マルチは炭で染めた紙であり、田植えの際に苗と一緒に敷設することで苗以外の部分の日光を遮断し、雑草の生長を抑制することができます。また、平成20年にはJGAP団体として認証を受け、より安全・安心な米作りに取り組んでいます。安全・安心なお米は、注文販売も受け付けています。口コミで評判が広がり、今では県外からも注文があるそうです。

次世代へつなぐ

志賀代表は今日の食料自給率が低下している状況に危機感を抱いています。巻島地域の農地を守る組合員には、兼業農家も少なくありません。巻島地域の農地を次世代へ繋ぐため、新潟市内で開催された農業を志す人とのマッチング会にも積極的に参加し、若い人を雇用したいと意欲をみせます。

エコファーム巻島の志賀代表、御多忙中のご取材にご協力いただき誠に感謝申し上げます。

取材者: 野崎 蘭・初崎 海
ホームページ随時更新中



米の有機栽培

環境に優しい
紙マルチ



エコファーム巻島の特徴は「紙マルチ」を使用した米の有機栽培です。「紙マルチ」の効果により除草剤を使用せず雑草を抑制することができるため豊かな生態系を保全することができます。

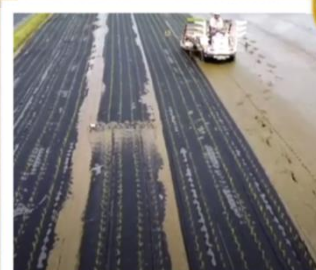
「紙マルチ」は苗が成長する頃には微生物によって分解され土壌に還元されるため、環境に優しい農法です。

↓「紙マルチ」専用の田植え機。



ここに
「紙マルチ」
を挿入する。

←田植えで紙マルチを植え付ける様子。紙マルチが黒くはっきり見える。



↑田植えから2週間経過した田んぼ。溶け始めた「紙マルチ」が、水中にうっすらと黒っぽく見える。

エコファーム巻島では・・・
若手職員募集中！

おいしいお米も注文できます！

→詳しくはエコファーム巻島公式
ホームページ(ecofarm-mkj.or.jp)へ